

新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

平成29年6月1日

第24号

資料紹介

かがみがおか

鏡ヶ岡高等学校創立20周年記念式典「式辞」

めいぎょう

～「明鏡高校生徒会文書」より～

下の資料は、新潟市立鏡ヶ岡高等学校創立20周年記念式典で当時の池田恵司校長が述べた式辞の一部です。

鏡ヶ岡高等学校は、新潟市立高等女学校が新制度の沼垂高等学校と改称した昭和23(1948)年6月に新潟市立沼垂高等学校定時制課程として設置されました。新潟地震直後の昭和39年7月に分離して鏡ヶ岡高等学校と改称し、新潟県内唯一の定時制の独立高等学校となりました。

沼垂高等学校定時制課程の設置から20年目の昭和42年11月26日、鏡ヶ岡高等学校創立20周年記念式典が挙行されました。当時の全校生徒は約2,000人のほり、定時制としては全国でも最大規模の学校になっていました。

式辞では、定時制教育が戦後の民主化教育の代表であり、働きながら学ぶことの困難さとその意義を述べています。その背景には式辞中にある、前年の

昭和41年に発足したETA(事業主と教師の会)の存在がありました。通信連絡簿により職場と学校が生徒の状況を把握する、学校職員が定期的に生徒の職場を訪問する、事業主が学校行事に参加する、働学両立生徒を表彰する、生徒の諸活動を援助する等、事業主と学校の協力体制が図られました。全国の定時制高校に先駆けた取り組みでした。

当時の新潟県は高校進学率が70%に満たず、また、高校生の5人に1人が定時制に通っていました。その中で、特に鏡ヶ岡高等学校は人気が高く、昭和40年の入試では、志願者が定員の2倍近くになりました。出席率95%前後を維持し、充実した教育活動が行われていたことから、全国各地から多くの教育関係者が視察に訪れるほどでした。

この資料は、「明鏡高校生徒会文書」の中にあります。「明鏡高校生徒会文書」は、平成7(1995)年、新潟市民芸術文化会館の建設工事に伴う新潟市立明鏡高等学校(白山校舎)解体の際、残存資料の調査を実施し、旧生徒会室から収集したものです。

鏡ヶ岡高等学校は、昭和56年、新潟市立白山高等学校定時制と統合し、現在は明鏡高等学校としてその伝統が引き継がれています。

申すまでもなく定時制教育は戦後教育の民主化教育の機会均等の最も代表的な教育制度でありましていろいろの事情で働きながら学ぶ青少年の国家社会有意な形成者としてその資質の向上と能力の開発を目ざすのであります。しかしながら働きつゝ学ぶという事は並たいてのことではありません幸いにも本校生徒はETA雇用主の温いご理解のもと伝統に輝く鏡ヶ岡の不撓不屈の精神で出席率も異常に高く入学後の脱落率も大変少ない状況であります各関係各位におかれましてはなお一層の温いご協力を賜りたいと念願するものであります。



昭42. 11. 26

式辞

(前略)

申すまでもなく定時制教育は戦後教育の民主化教育の機会均等の最も代表的な教育制度でありましていろいろの事情で働きながら学ぶ青少年の国家社会有意な形成者としてその資質の向上と能力の開発を目ざすのであります。しかしながら働きつゝ学ぶという事は並たいてのことではありません幸いにも本校生徒はETA雇用主の温いご理解のもと伝統に輝く鏡ヶ岡の不撓不屈の精神で出席率も異常に高く入学後の脱落率も大変少ない状況であります各関係各位におかれましてはなお一層の温いご協力を賜りたいと念願するものであります。

(後略)

平成28年度事業概要

今年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備担当では、古文書等の複製資料や、図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備担当へご連絡ください。今年度の一般利用状況の件数は次のとおりです。

| 区分 | 図書 | 更正図 | 文書 | 公文書 | 写真 | 計 |
|----|----|-----|-----|-----|----|-----|
| 閲覧 | 38 | 51 | 87 | 23 | 31 | 230 |
| 複写 | 36 | 49 | 68 | 18 | 31 | 202 |
| 掲載 | 0 | 1 | 5 | 4 | 21 | 31 |
| 計 | 74 | 101 | 160 | 45 | 83 | 463 |

(平成29年3月31日現在)

■資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は北区（1か所）・東区（1か所）・中央区（3か所）・秋葉区（2か所）・南区（2か所）・西蒲区（2か所）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は148点（紙文書52点、電子文書96点）、文書箱にして25箱を引き継ぎました。

■資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。今年度の整理状況は次のとおりです。

| 文書群名 | 区分 | 点数 | 主な内容 |
|----------------------|----|-----|---------------|
| 西区小針 佐々木勉氏寄贈資料 | 寄贈 | 1 | 写真帳 |
| 秋葉区古津 萱森昭夫氏旧蔵資料 | 寄贈 | 3 | 更正図 |
| 中央区関屋田町 今井泰博氏旧蔵資料 | 寄贈 | 334 | 市内風景写真ほか |
| 中央区本町通 田辺家文書 | 寄贈 | 338 | 近世～ 近代地域資料 |

②歴史資料のマイクロフィルム撮影と複製本の作成 歴史資料のマイクロフィルム撮影およびデータ化

と、焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数は28本、作成した複製本は次のとおりです。

- ・吉田新田古文書（明治～昭和期）
簿冊数：22冊（データ化したDVD：1枚）
- ・吉江村古文書（近世中期～大正期）
簿冊数：100冊（データ化したDVD：3枚）
- ・坂口家古文書（近世後期～昭和期）
簿冊数：18冊（データ化したDVD：1枚）

③旧更正図・土地台帳の移管と整理

資産税課から、旧豊栄・亀田・横越・新津・小須戸・岩室・西川・巻の旧更正図・土地台帳を歴史文化課に移管を受け、横越公文書分類センターで整理・目録作成をしています。完了したものから順次公開しています。詳しくは歴史資料整備担当までお問い合わせください。

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月3・17日、10月1・22日に、新潟市万代市民会館で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、毎回180名を超える多くの方々にご参加いただきました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

| 日程 | 講義名 | 講師 |
|-------|----------------------------------------------------------------|--------------------|
| 9/3 | 新潟の町の小学校の歴史 ～学校教育資料を読む～ | 新潟大学 特任教授 伊藤 充 |
| | 庄屋の見た戊辰戦争 ～大安寺村と平島村の 庄屋の日記を読む～ | 歴史文化課 高野まりい |
| 9/17 | 日本近現代史研究から見た 1964年新潟地震 ～白山小学校児童作文綴の 分析を中心に～ | 新潟大学准教授 中村 元 |
| | 映像で見る新潟の昭和史 | 歴史文化課 唐沢 哲也 |
| 10/1 | 新潟湊と良寛 | 全国良寛会 副会長 小島 正芳 |
| | 川村奉行の見た新潟町の行事 ～川村家文書 「新潟市中風俗書」を読む～ | 歴史文化課 有田 一正 |
| 10/22 | 蒲原津・沼垂湊とむすぶ 中世の荘園と国領 | 武蔵大学教授 高橋 一樹 |
| | 戦国期の年貢請取状と検地帳を読む ～蒲原郡小吉条と茨曾根関根家文書～ トークショー「新潟市域の荘園の魅力を語る」 | 歴史文化課 長谷川 伸 |

■区制移行10周年記念事業

「新潟市のあゆみ」講座の開催

平成27年度に発行した歴史パンフレット「新潟市のあゆみ」をテキストとする講座を開催しました。今年度は東区と中央区で開催しました。今後も順次、各区で開催予定です。

平成28年度歴史講座より
トークショー「新潟市域の荘園の魅力語る」



前半の高橋一樹氏の講座の様子

10月22日の歴史講座では、前半の講義を受けて、参加者に講義内容をより深く理解してもらうために、初めての試みとして、講師2名による座談会方式のトークショーを行いました。講義のテーマである「荘園」について、古代・中世の新潟市域を舞台に、その魅力をわかりやすく紹介しました。講師は、新潟市出身で、日本中世荘園研究の第1人者である高橋一樹氏（武蔵大学教授、元国立歴史民俗博物館准教授）と歴史資料整備担当職員です。

「蒲原津・沼垂湊とむすぶ中世の荘園と国領」と題した高橋講師の講義では、中世の新潟地域に存在した蒲原津・沼垂湊という湊町の繁栄を支えたものとして、①信濃川・阿賀野川を中心とした大小の河川と潟湖の間を縫う様に立地した荘園や国領（国府の管轄する領地）が存在したこと、②荘園や国領の年貢等は新潟砂丘の内側に発達した大小の河川と潟湖をつなぐ舟運ルートが発達したことを挙げ、年貢などが集まる蒲原津・沼垂湊は越後と中央を結ぶ「富」のターミナルであったことなどを明らかにされました。

後半のトークショーでは、まず最初に誰もが学校で学んだことのある「荘園」について、教科書で述べられてきたことを確認しました。そこで職員はそれでもわかりにくい「荘園」とは何か、という疑問を發しました。これに対して高橋講師は、古代の官僚である貴族の給料は、現代に例えれば地方自治体が徴収する税金によって賄われていたが、その徴税が滞るようになったため、官僚である貴族に既存の地方行政単位の一定エリアの支配を認めて徴税さ

せ、その中から一定部分を収入として認める仕組みを設けたのが「荘園」であると、明快な説明をされました。

次に、高橋講師と職員で、中世の新潟市域の自然条件～特に地形と各区に存在した「荘園」を概観しました。高橋講師は新潟市内とりわけ阿賀野川沿岸地域で進む重要遺跡の発掘事例から、舶来陶磁器や備蓄銭、さらには大量の土器（かわらけ）の一括廃棄の事例などからわかる平安・鎌倉期の荘園村落の姿を紹介しました。

最後に、中世の沼垂湊と蒲原津の役割を考えると、というテーマについて、前半の講義でも触れた信濃川と阿賀野川を中心に形成された、大小河川と潟湖を結んだ内陸水面交通の様子を確認しながら意見交換をしました。高橋講師は「東大寺要録」の豊田荘の境界表記「西限下御方」の解釈について新見解を示し、「西（の境界）は下御方＝しもみかたを限る」と読むと、江戸時代の正保国絵図に見える「島見前潟（しまみまえかた）」の古い名前に比定できること、とすると沼垂湊は阿賀野川と島見前潟をルートとする阿賀北地域の荘園の湊として中心的な役割を果たしていたことを明らかにしました。一方職員は、歴史講座で題材としてきた近年の「新潟」に関する初見史料や仏像の銘文などの検討から、中世の蒲原津、戦国期の新潟津の位置について新たな仮説を提示しました。謎の多い沼垂湊・蒲原津、新潟津については会場から幾つかの質問も出て、活気ある講座となりました。

今回のトークショーは、身近な歴史の話題と全国的な研究の最前線を結び付けて、市民の皆さんに楽しく紹介しようという試みでした。今後も魅力ある歴史講座を企画したいと思います。



初の試みとなったトークショーの様子

写真紹介

民間企業が建設・経営した臨港埠頭

りんこうふとう

信濃川開口部右岸にある臨港埠頭は、民間企業によって建設・経営されてきた日本でも珍しい埠頭です。県営埠頭を補完し、新潟港の機能を強化する目的がありました。この埠頭は、専門的な荷役施設と大量の貨物輸送を可能にした鉄道の敷設により、大正末期から第1次オイルショックまでの約50年間、新潟市の商工業の発展を支えてきました。

写真1 臨港埠頭は、明治末期から山ノ下に乳牛牧場を開いていた新潟健康舎が新潟臨港株式会社と改名後、建設したものです。従来の牧畜業中心から、海運・倉庫業などの業務に切り換えて経営の伸展を図り、その核としたのが埠頭の建設でした。写真は、工事着手前の砂丘地に牛が放牧されている、のどかな様子です。

写真2 建設途中の臨港埠頭全景です。右に明治28(1895)年開設の新潟鉄工所山ノ下工場、中央には臨港鉄道の線路が見えています。この鉄道は大正13(1924)年12月、第一埠頭が完成するより早く開業しました。写真からは、通船川、栗ノ木川、やけしまがた焼島潟、煙の上がる工場群や住宅地がわかります。港湾工事は大正12年5月に着工し、すべての施設が完成したのは、昭和6(1931)年2月のことでした。

写真3 臨港埠頭は、石炭・雑貨・木材・石油の専門的な荷役設備を持っていました。昭和に入り新鋭機械を次々に導入したことで荷役能力は大きく向上します。石炭の陸揚げ・運搬用のバケットエレベーターや高架のトロッコ用軌道、油槽所などの近代設備が整いました。さらに太平洋戦争の中にあっても太平洋沿岸諸港の貨物を引き受けたことで取扱量は増加の一途をたどります。写真3は、終戦時の混乱を乗り越え、再び活気を取り戻した昭和30年代中頃、高度成長期を迎えた臨港埠頭荷役の様子です。昭和30年代にかけて、新潟市の工業発展を支えてきた山ノ下地区工場地帯の活気ある様子も伝わってきます。しかし、昭和50年以降は経済低成長時代に入り、臨港埠頭の役割もしいだいに縮小していきました。

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、お知らせください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお問い合わせください。



写真1 臨港工事着手前の健康舎牧場(大正前期)



写真2 建設中の臨港埠頭全景(大正末期、空中写真)



写真3 第三埠頭における木材荷役(昭和34年)

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課 歴史資料整備担当

〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425番地9
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp